

白山ふるさと文学賞

第八回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生作文の部 優秀賞

未来で輝くために

北辰中学校三年

山下 やました

紗菜 すずな

私は昔から体が弱く、薬にたよることが多くありました。飲みなれた薬が処方された時は「いつもの薬か」と気楽に思っていました。初めて薬が処方された時はとても怖く、不安な気持ちでいっぱいでした。ですが、薬局に行き、薬剤師さんの説明をきいているうちに不安がなくなり、逆に安心して薬を飲むことができました。何を聞いても笑顔で答えてくれたその姿に憧れを抱くようになり、私の将来の夢は「薬剤師」になりました。

それまでの自分は何を決めるにも優柔不断で、決めたとしてもそう長く続きませんでした。ですが、憧れを強く抱き、将来の夢を決めてから一度も揺らぐことがなかったし、「いつか自分もたくさんの人に薬の説明をして安心して飲んでもらうんだ。」と明確に目指す理由ができました。

中学生になると、本格的に将来の夢を考えたり、調べるようになりました。調べてみたら薬剤師になるには六年間大学に通わないといけないこと、国家資格をとらないといけないことが分かりました。私は調べたことよって、薬剤師になるための道筋が見えてきたこととても喜びを感じました。そして大学に行くためには偏差値が高い高校に行かないと大学に行くのは難しいと分かり、学力を上げようと決意しました。

そして、中学二年生の夏に母に「北陸大学のオープンキャンパスに参加してみない？」と言われました。私は大学がどんな所か気になったし、薬学部がどんな勉強をしているのか気になったし行ってみることにしました。

当日、北陸大学に行ってみるとたくさん高校生がいました。そのとき、自分と同じ夢を持った人がこんなにいるんだと少し不安になりました。講演を聞き、北陸大学は北陸で一番薬剤師を輩出していることが分かり、「この大学が一番夢に近づけるかも」と思いました。この時、自分はまだ薬学部の授業を甘く見ていました。

いざ授業をうけてみるとあまりよく分からず、一緒にいてくれた父に頼りっぱなしになってしまい、とても焦り不安になりました。すべての

体験が終わり、大学の先生や学生の方と話すときに相談してみると、「これからたくさん勉強すれば大丈夫！」と言われ、とても安心したし、自信も持てました。

そして今年の夏、色々な場所ではたらく薬剤師さんが集まってそれぞれの仕事を紹介する薬剤師セミナーがあり、薬局ではたらく薬剤師さんしか知らない私はいい機会だと思い参加してみました。そして講演を聞いたとき私は衝撃を受けました。私はそれまで薬剤師と患者は距離が近いと思っていたけど、勤める場所によって全く関わらないこともあると知りました。そして薬剤師でも、薬を売ったり、作ったりするだけでなく、環境保全や大気汚染を防止したりすることも仕事のひとつだと知ることができました。薬剤師の仕事にもたくさん道のがあると分かり、自分にあつた職場を考えていこうと思いました。

この二つの体験を通して、薬剤師がどのような職業か、どうしたらなれるのが以前に比べてよく分かりました。そして、これからたくさん壁にぶつかることも分かり、多くの不安が広がりました。両親にも「たくさん勉強して国家資格もとらないといけないんだよ。」と言われましたけれど、たとえ大変でも自分が決めた道だから最後までやりきりたいと決意できました。

薬剤師という職業は自分が憧れてなりたいと初めて思った夢です。ですが、今のままでは叶えることは難しいと思います。だからこそどんどんチャレンジして、くじけそうになっても、めげずに自分の夢に向かって走りつづけてください。そして将来、自分が自分の仕事に誇りを持てるように未来が明るく輝けるように、がんばっていききたいです。